

# 期待するアウトカムと主な目標

期待するアウトカム	主な取り組み	中期目標	目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> <li>原料農産物生産地の収益向上、農園労働者の給与向上・衛生環境向上</li> <li>食料システムとしての食料消費持続性向上・環境に配慮した農業の推進</li> <li>生態系を豊かにする農業による里地里山の再構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スリランカ紅茶小農園へのレインフォレスト・アライアンス認証取得支援、認証茶葉使用・通年商品発売</li> <li>ベトナムコーヒー小農園へのレインフォレスト・アライアンス認証取得支援</li> <li>持続可能な生物資源行動計画の対象品目拡大・対象事業拡大</li> <li>ブドウ畑・ホップ畑の生態系調査・植生再生活動</li> </ul>	<p><b>紅茶農園の持続可能性</b> レインフォレスト・アライアンス認証取得支援 小農園数 2025年 <b>10,000農園</b></p> <p><b>フードウェイスト</b> 2025年 (2015年比) <b>75%削減</b> <b>KB KBC ME</b></p> <p><b>パーム油の持続性</b> 持続可能なパーム油使用比率 <b>100%継続</b> <b>KG</b></p>	<p><b>生物資源</b></p> <p>持続可能な生物資源を利用している社会</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>製造拠点の流域の特性に応じた水利用と水源地の涵養度向上</li> <li>洪水などの自然災害にレジリエンスある製造・物流による商品の安定供給</li> <li>原料農産物生産地の洪水、湯水被害へのレジリエンス向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル製造拠点、バリューチェーン上流、物流ルートの水リスク調査</li> <li>製造拠点の用水原単位削減</li> <li>製造拠点の洪水リスク、物流寸断リスクに対するマニュアル整備</li> <li>工場水源地、生産地水源地保全</li> </ul>	<p><b>用水使用量</b> 2030年 (2015年比) <b>30%削減</b> <b>KKC</b></p> <p><b>水源の森活動</b> <b>継続</b> <b>KB KBC KKC KD</b></p> <p><b>スリランカ紅茶農園内の水源地保全</b> 2020年 <b>5カ所</b> <b>KBC</b></p>	<p><b>水資源</b></p> <p>持続可能な水資源を利用している社会</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチックが循環し続ける社会の実現</li> <li>新たな石油資源が不要なプラ容器を使っている社会実現</li> <li>原料の森林に悪影響を与えない紙利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PETボトルへのリサイクル樹脂使用比率向上、回収システム構築</li> <li>ケミカルリサイクルシステムの確立</li> <li>バイオマス樹脂の導入、非プラスチック代替素材への転換</li> <li>容器・ラベル軽量化の継続</li> <li>認証紙の紙容器使用比率向上</li> </ul>	<p><b>リサイクル材やバイオマスで持続可能性</b> PETボトルのリサイクル樹脂比率 2050年 <b>100%</b> 2027年 <b>50%</b> <b>KB KBC ME</b></p> <p><b>国内飲料事業での紙容器FSC認証紙使用比率</b> 2020年 <b>100%</b> <b>KH KB KBC ME</b></p>	<p><b>容器包装</b></p> <p>容器包装を持続可能に循環している社会</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>気温上昇を1.5℃以下に抑えた気候変動影響が最小限となる社会実現</li> <li>自然や生活環境に悪影響を与えない再利用エネルギーの拡大への寄与</li> <li>快適性を損なわない脱炭素社会の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総環境投資損益中立の範囲内でのヒートポンプ導入などの省エネルギー導入</li> <li>使用電力の再生可能エネルギー100%化</li> <li>Scope3でのGHG排出量削減のための社会への働きかけ</li> <li>脱炭素社会へのライフスタイル提案</li> </ul>	<p><b>バリューチェーン全体のGHG排出量</b> 2050年 <b>ネットゼロ</b></p> <p><b>GHG排出量</b> (SBT1.5 承認済み) Scope1+2で <b>50%削減</b> (2030年、2019年比) Scope3で <b>30%削減</b> (2030年、2019年比)</p> <p><b>使用電力の再生可能エネルギー比率</b> 2040年 <b>100%</b> <b>KG</b> (RE100加盟済み) 2025年 <b>100%</b> <b>LN</b></p>	<p><b>気候変動</b></p> <p>気候変動を克服している社会</p>

キリンググループ環境ビジョン2050  
**ポジティブインパクトで、豊かな地球を**



お客様をはじめ広くステークホルダーと協働し、自然と人にポジティブな影響を創出することで、こころ豊かな社会と地球を次世代につなげます

# 進捗状況 (2020年末)

テーマ	一緒につくりたい2050年の社会	項目	目標	実績
生物資源	持続可能な生物資源を利用している社会	レインフォレスト・アライアンス認証取得支援小農園数 <small>KBC</small>	10,000農園 (2025年)	2,120農園
		事務用紙へのFSC認証紙または古紙の使用 <small>KB KBC ME</small>	100% (2020年)	100.00%
		パーム油RSPO認証比率 (Book&Claim) <small>KB KBC KIW</small>	100% (2020年)	100%
		フードウェイストの削減 <small>KB KBC ME</small>	-75% (2025年、15年比)	-44% (2019年度)
水資源	持続可能な水資源を利用している社会	用水原単位削減率 <small>MBL</small>	-28% (2021年、15年比)	-27%
		用水使用量削減率 <small>KKC KHB</small>	30% (2030年、15年比)	<small>KKC -44% KHB -43%</small>
		スリランカ紅茶農園内水源地保全数 <small>KBC</small>	5カ所 (2020年)	5カ所
		スリランカ 水を大切にすプログラム参加人数 <small>KBC</small>	15,000人 (2020年)	15,000人
容器包装	容器包装を持続可能に循環している社会	リサイクル材やバイオマスなどを使用した持続可能な容器包装 <small>KB KBC ME</small>	100% (2050年)	1.5%
		PETボトル用樹脂のリサイクル樹脂の使用率 <small>KB KBC ME</small>	50% (2027年)	1.5%
		容器材料のリサイクル性 <small>LN</small>	100% (2025年)	95%
		容器包装資材のリサイクル材料比率 <small>LN</small>	50%以上 (2025年)	45~49%
		6缶パックへのFSC認証紙の使用 <small>KB KBC ME</small>	100% (2020年)	100%
		ギフト箱へのFSC認証紙の使用 <small>KB KBC ME</small>	100% (2020年)	100%
		紙パックへのFSC認証紙の使用 <small>KB KBC ME</small>	100% (2020年)	100%
		製品用段ボールへのFSC認証紙の使用 <small>KB KBC ME</small>	100% (2020年)	100%
気候変動	気候変動を克服している社会	バリューチェーン全体のGHG排出量 <small>KG</small>	ネットゼロ (2050年)	4,864千tCO <sub>2</sub>
		GHG削減率: Scope1と2の合計 <small>KG</small>	50% (2030年、19年比)	-8%
		GHG削減率: Scope3 <small>KG</small>	30% (2030年、19年比)	-3%
		使用電力の再生可能エネルギー比率 <small>KG</small>	100% (2040年)	10%
		太陽光発電設備を設置 <small>LN</small>	10MW (2026年)	1.2MW

KG キリンググループ KH キリンホールディングス KB キリンビール KBC キリンビバレッジ ME メルシャン KKC 協和キリン KHB 協和発酵バイオ KIW 小岩井乳業 LN ライオン MBL ミャンマー・ブルワリー

# CSVコミットメント

事業を通じて中長期的に目指す姿を明らかにする「CSVコミットメント」では、19のコミットメントを策定しています。その中で「環境」に関連する社会的課題として、「長期環境ビジョン」の達成に向けた2020年～2030年を目標年とする4つのコミットメントを定めました。「地域社会への貢献」

に関連する5つのコミットメントでも「環境」に関連する社会課題の解決を目指しています。2020年に新たな長期戦略「キリングroup環境ビジョン2050」が策定・発表されたことを受けて、今後、順次「CSVコミットメント」を改訂していきます。

	キリングroup環境ビジョン2050	SDGsターゲット	コミットメント	アプローチ	成果指標	成果指標 目標値
 <b>持続可能な原料農産物の育種・展開および調達を行います</b> <b>農園に寄り添い原料生産地を持続可能にします</b> 到達目標：持続可能な生物資源を利用している社会		ターゲット 2.3 ターゲット 8.9 ターゲット 15.4 ターゲット 17.16 ターゲット 17.17	2.2.d 原料生産の持続可能性強化 レインフォレスト・アライアンス認証の取得支援をはじめ、スリランカの紅茶農園を長期的に支援し、認証茶葉の使用を拡大していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●紅茶葉の調達持続可能性を担保するために、レインフォレスト・アライアンス認証の取得支援を通じて、紅茶葉生産者を支援します。</li> <li>●長期的にレインフォレスト・アライアンス認証茶葉の使用を拡大していきます。</li> </ul>	レインフォレスト・アライアンス認証 取得支援小規模農園数 KH KBC	10,000農園 (2025年)
		ターゲット 15.4 ターゲット 17.16 ターゲット 17.17	3.3 生物資源の取り組み 原料生産地と事業地域における自然環境を守り、生態系を保全します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主要原料の生産地における生物資源に関する取り組みを推進します。</li> <li>●森林破壊につながる可能性のある原材料の持続性確保に努めます。</li> </ul>	①事務用紙へのFSC認証紙または古紙の使用 ②主要容器包装資材*1へのFSC認証紙の使用 ③持続可能なパーム油への対応 KH KB KBC ME	①100% (2020年) ②100% (2020年) ③100%*2
		ターゲット 2.4 ターゲット 12.3 ターゲット 17.16 ターゲット 17.17	3.5 フードウェイストの削減 工場出荷からお取引先納品までに生じる製品廃棄量を削減します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●需給予測精度の向上により、廃棄につながる余剰在庫を削減します。</li> <li>●品質管理の徹底により、無駄な製品廃棄を削減します。</li> </ul>	製品廃棄量削減率 KB KBC ME	75% (2025年、15年比)
		ターゲット 3.9 ターゲット 6.4 ターゲット 17.16 ターゲット 17.17	3.2 水資源への取り組み 生産活動における水使用量を削減するとともに、水源地の保全活動を継続的にいきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工場における節水活動を推進します。</li> <li>●製造拠点における水リスクを把握します。</li> <li>●水源地の保全活動を継続します。</li> </ul>	①2021年の水原単位削減率 ②2030年の水使用量削減率 MBL KKC	MBL ①28% (2021年、15年比) KKC ②30% (2030年、15年比)
		ターゲット 12.2 ターゲット 12.4 ターゲット 14.1 ターゲット 17.16 ターゲット 17.17	3.4 容器包装の取り組み 容器包装の軽量化を継続するとともに、材料の非再生資源依存を低減し、持続性を高めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●容器包装の3R・資源循環に努めます。</li> <li>●容器への持続可能な素材の利用を拡大します。</li> <li>●製品や容器の開発の早期段階での容器材料選定と同様に容器のライフサイクル評価 (LCA) を導入します。</li> </ul>	①PETボトル用樹脂のリサイクル樹脂の使用率 ②容器材料のリサイクル性 ③容器包装資材のリサイクル材料比率 KB KBC ME LN	KB KBC ME ①50% (2027年) LN ②90%以上 (2030年) ③50%以上 (2030年)
 <b>原料として使用する水を持続可能な状態にします</b> <b>事業拠点の流域特性に応じた水の課題を解決します</b> 到達目標：持続可能な水資源を利用している社会		ターゲット 7.2 ターゲット 13.1 ターゲット 17.16 ターゲット 17.17	3.1 気候変動影響への対応 再生可能エネルギーの導入をはじめとした更なる温室効果ガス (GHG) 排出削減の取り組みを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再生可能エネルギーの導入を推進します。</li> <li>●省エネルギーを推進します。</li> </ul>	①使用電力の再生可能エネルギー比率 ②太陽光発電設備を設置 ③グループ全体GHG削減率：Scope1と2の合計 ④グループ全体GHG削減率：Scope3 KG	KG ①100% (2040年) LN ②10MW (2026年) KG ③50% (2030年、19年比) ④30% (2030年、19年比)
		ターゲット 12.2 ターゲット 12.4 ターゲット 14.1 ターゲット 17.16 ターゲット 17.17	3.4 容器包装の取り組み 容器包装の軽量化を継続するとともに、材料の非再生資源依存を低減し、持続性を高めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●容器包装の3R・資源循環に努めます。</li> <li>●容器への持続可能な素材の利用を拡大します。</li> <li>●製品や容器の開発の早期段階での容器材料選定と同様に容器のライフサイクル評価 (LCA) を導入します。</li> </ul>	①PETボトル用樹脂のリサイクル樹脂の使用率 ②容器材料のリサイクル性 ③容器包装資材のリサイクル材料比率 KB KBC ME LN	KB KBC ME ①50% (2027年) LN ②90%以上 (2030年) ③50%以上 (2030年)
 <b>持続可能な容器包装を開発し普及します</b> <b>容器包装の持続可能な資源循環システムを構築します</b> 到達目標：容器包装を持続可能に循環している社会		ターゲット 7.2 ターゲット 13.1 ターゲット 17.16 ターゲット 17.17	3.1 気候変動影響への対応 再生可能エネルギーの導入をはじめとした更なる温室効果ガス (GHG) 排出削減の取り組みを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再生可能エネルギーの導入を推進します。</li> <li>●省エネルギーを推進します。</li> </ul>	①使用電力の再生可能エネルギー比率 ②太陽光発電設備を設置 ③グループ全体GHG削減率：Scope1と2の合計 ④グループ全体GHG削減率：Scope3 KG	KG ①100% (2040年) LN ②10MW (2026年) KG ③50% (2030年、19年比) ④30% (2030年、19年比)
		ターゲット 7.2 ターゲット 13.1 ターゲット 17.16 ターゲット 17.17	3.1 気候変動影響への対応 再生可能エネルギーの導入をはじめとした更なる温室効果ガス (GHG) 排出削減の取り組みを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再生可能エネルギーの導入を推進します。</li> <li>●省エネルギーを推進します。</li> </ul>	①使用電力の再生可能エネルギー比率 ②太陽光発電設備を設置 ③グループ全体GHG削減率：Scope1と2の合計 ④グループ全体GHG削減率：Scope3 KG	KG ①100% (2040年) LN ②10MW (2026年) KG ③50% (2030年、19年比) ④30% (2030年、19年比)
 <b>パリューチェーン全体の温室効果ガス排出量をネットゼロにします</b> <b>脱炭素社会構築に向けリードしていきます</b> 到達目標：気候変動を克服している社会		ターゲット 7.2 ターゲット 13.1 ターゲット 17.16 ターゲット 17.17	3.1 気候変動影響への対応 再生可能エネルギーの導入をはじめとした更なる温室効果ガス (GHG) 排出削減の取り組みを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再生可能エネルギーの導入を推進します。</li> <li>●省エネルギーを推進します。</li> </ul>	①使用電力の再生可能エネルギー比率 ②太陽光発電設備を設置 ③グループ全体GHG削減率：Scope1と2の合計 ④グループ全体GHG削減率：Scope3 KG	KG ①100% (2040年) LN ②10MW (2026年) KG ③50% (2030年、19年比) ④30% (2030年、19年比)
		ターゲット 7.2 ターゲット 13.1 ターゲット 17.16 ターゲット 17.17	3.1 気候変動影響への対応 再生可能エネルギーの導入をはじめとした更なる温室効果ガス (GHG) 排出削減の取り組みを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再生可能エネルギーの導入を推進します。</li> <li>●省エネルギーを推進します。</li> </ul>	①使用電力の再生可能エネルギー比率 ②太陽光発電設備を設置 ③グループ全体GHG削減率：Scope1と2の合計 ④グループ全体GHG削減率：Scope3 KG	KG ①100% (2040年) LN ②10MW (2026年) KG ③50% (2030年、19年比) ④30% (2030年、19年比)

- KG キリングgroup
- KB キリンビール
- ME メルシャン
- LN ライオン
- KH キリンホールディングス
- KBC キリンビバレッジ
- KKC 協和キリン+協和発酵バイオ
- MBL ミヤンマー・ブルワリー

\*1 6缶パック、ギフト箱、紙パック、製品用段ボール箱  
 \*2 RSPOのBook & Claim方式で対応

**CSV重点課題**

**地域社会・コミュニティ**

**コミットメント**

2.2.a 日本産ホップの品質向上と安定調達に取り組み、日本産ホップならではの特徴あるビールづくりを行うとともに、生産地域の活性化に寄与します。

2.2.b 世界に認められる日本ワインの発展を牽引し、ワインづくりやブドウづくりを支える産地・地域農業の活性化に貢献します。

2.2.c ミヤンマーの醸造米について、持続可能性の高い調達環境を実現し、地域社会への責任を果たします。

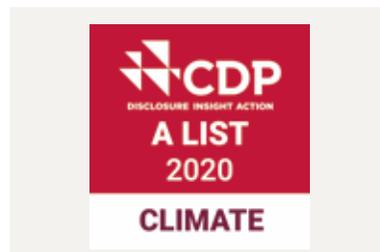
2.2.d レインフォレスト・アライアンス認証の取得支援をはじめ、スリランカの紅茶農園を長期的に支援し、認証茶葉の使用を拡大していきます。

2.2.e サプライヤーとの持続可能なパートナーシップを発展させることで、双方の持続的な収益と、サプライチェーンを通じた価値創造を実現します。

※上記は、2020年6月末時点でのCSVコミットメントです

# 外部評価

キリンググループは、投資家をはじめとしたステークホルダーに対して、透明性のある情報開示を実施しています。その結果として、下記のようなグローバルなインデックスへの組み入れや評価をいただいています。



CDP気候変動 Aリスト  
(2年連続)



CDP水セキュリティ Aリスト  
(5年連続)



CDPサプライヤー・エンゲージメント評価  
「リーダー・ボード」  
(3年連続)



ESGファイナンス・アワード・ジャパン  
「環境サステナブル企業部門」で「金賞」  
(2年連続)



第2回日経SDGs経営大賞で  
「環境価値賞」および最高位  
(2年連続)



「キリンググループ環境報告書2020」が  
第24回環境コミュニケーション大賞で  
「気候変動報告大賞（環境大臣賞）」

## 主なインデックス



PETボトルの  
新規薄膜形成技術  
ワールドスター賞・木下賞



「キリン 生茶デカフェ」  
ワールドスター賞



ビール軽量中びん  
ワールドスター賞



第26回地球環境大賞  
フジサンケイグループ賞



キリン・スクール・チャレンジ  
「キャリア教育アワード」  
奨励賞



キリン・スクール・チャレンジ  
平成29年度「青少年の  
体験活動推進企業表彰」  
審査委員会奨励賞



第6回いきものにぎわい  
企業活動コンテスト  
審査委員特別賞



横浜工場  
緑の都市賞・  
みどりの社会貢献賞



グリーン物流パートナー  
優良事業者表彰  
国土交通大臣表彰



第18回物流大賞  
物流環境大賞



WWFジャパン  
「企業の温暖化対策ランキング」  
「食品業種」第1位



WWFジャパン「ビジネスと  
生物多様性勝手にアワード」  
最高賞「百獣の王賞」